

2018 年度 社会人入学試験（地理学科）

解答例

白川郷では、高度経済成長期以降、合掌造りは減少の一途をたどった。これには、電源開発（ダム建設）による集落の水没、企業（パルプ会社など）による山林の買収など、外的な要因ももちろんあるが、合掌造り家屋の構造が現代の生活スタイルに合わなくなってきたことも一因に挙げられる。養蚕が行われなくなると、何重もの屋根裏部屋は不要であるし、合掌造り家屋を維持するためのコストもかかる。そのため、次第に現代的な住居に建て替えられてきた。こうした状況下で、合掌造りを守るために、1971年には、「白川郷荻町集落の自然環境を守る会」が結成され、ソフト面でも保存に向けた取組みがなされていくようになった。さらに、1976年には、重要伝統的建造物群保存地区に指定された。そして、1995年には、菅沼、相倉とともに「白川郷・五箇山の合掌造り集落」として世界文化遺産に登録された。世界文化遺産登録以降、観光客は増加してきた。これと並行して、観光客の急増による負の側面もみられるようになった。例えば、自動車が集落内に乗り入れることによる渋滞の発生などである。そのため、村では、2011年に集落内の公営駐車場を廃止し、2014年には観光車両の集落内への乗り入れを規制した。

出題意図

地域問題は地理学における重要なテーマであるため、出題した。